



医業の入口に立った諸君、 まずはこれを持っていけ

評者 | 深谷英平 北里大講師・循環器内科学

本書を手に取り、初めに感じたことは、「自分の研修医開始時点に読みたかった……」の一言に尽きる。なんなら、専攻医や看護師にもとても役に立つ内容ですよ、これは。

第1章は、医学部の座学では全く教わることのない、現場の話から始まる。それぞれの病院・病棟には仕事をするうえでのルール〔一部はローカルルール(汗)〕があるが、そのお作法は、都度現場の先輩方に口頭で教わってきた。時に別のローテーション先の先輩医師だったり、先輩看護師だったり、同僚だったりコミュニケーションを取りながら、その不文律をなんとなく自分の中で習得していった。昔はそのような“俺流かもしれない不文律”が通用したが、昨今は医療安全の観点からも、ある程度型にはまったものがようになってきている。本書はまさにその点を、具体例と共に記載されている。とりあえずこれを読んでおけば大きく外れることはなさそうである。さらには、プレゼンテーション、コンサルテーション、学会発表、論文、SNSの使い方と続く。まさに痒いところに手が届いている感じ。世の中には医学書といえば専門書が多く、より細分化された、マニアックな教科書が増えつつあるなか、本書のような、いわば“医業の入口部分”にこれだけ手厚く解説を加えている著書を私は見たことがない。

第2章は、膨大な循環器領域の疾患や検査を全体的に網羅しつつも、素朴な疑問にうし先生が答えるスタイルの解説で、理解しやすい構成だ。各タイトルを見ただけで読みたくなる。しかも、私が普段若手から質問される内容とかなり似ているじゃないか。今後はこの本を読み、と言おうと思う。それくらい、スーッと入ってくる解説である。

さらに第3章では、より深いテーマを取り上げている。ここは専攻医や循環器スタッフでも知りたいような複雑な内容を、これまたシンプルにまとめている。第3章の最初の項目が、「患者さんが帰りたいと言って制止がききません……」という、テーマ。そこきたかっ！ と思ったが、結構現場ではある話。なかなかこういう解説は目にしないので、ありがたい。それ以外の項目も、読みたくなるテーマがめじろ押しだった。「苦手な指導医・上司の対処法を教えてください(泣)」なんていう項目がある医学書、初めて見たわ(笑)。

それはさておき、全体の構成として、全てのテーマを見開き2ページでまとめるコンパクトさは、まさに秀逸である。結構ボリュームがある著書だが、さらっと気になるパートだけを開いても、1話完結ストーリーとして実に読みやすい。忙しい研修が始まった後でも、役に立つこと間違いなしだ。

一通り読んでみて、なんとも読みやすい本であった。うし先生の単著でこのクオリティ、彼の教育への情熱を感じる作品である。ぜひ、一読あれ。 **G**



循環器病棟の業務 が全然わからないの で、うし先生に聞いて みた。

上原 拓樹=著

定価: 4,950 円(本体 4,500 円+税 10%)
B5・頁 216/医学書院/2024
[ISBN978-4-260-05621-2]